

## 事業実施結果報告書

## 障害者芸術文化活動普及支援事業

団体名称	認定特定非営利活動法人もうひとつの美術館	代表者	梶原紀子
所在地	栃木県那須郡那珂川町小口1181-2		
事業担当者	梶原紀子		
連絡先	0287-92-8088	メールアドレス	mob@nactv.ne.jp

## 1 事業概要・成果報告

<p>取り組んだ事業の概要、事業実施により得られた成果</p> <p>※できる限り具体的に記入すること</p>	<p>栃木県内には古くから創作活動を行っている福祉事業所や、これから創作活動をしたと考えている福祉事業所や個人がいるものの、創作の環境を整備できていない現状にある。また、施設内での障害者の創作活動に対する職員間での関心の差があり、支援する職員が孤軍奮闘している状況でもある。そのような状況下で、悩みなどを受ける相談窓口を設け、かつ、障害者への支援者自身が芸術に親しみを持つ体験から始め、障害者の芸術の良さを知り、理解を深めるために研修を行うこと、そして、先駆的に障害者の芸術文化活動をしている他地域の福祉事業所を見学することから自分たちの問題点を認識し、これからの活動の未来像を思い描けるようになることこそが、障害者の芸術文化活動を支援する人材を増やし、育成していくことに繋がると考え、本事業に取り組んだ。</p> <p><b>&lt;相談支援機能を持った拠点の設置&gt;</b> とちぎアートサポートセンターTAM[タム]を開設した。 [成果]県内で創作活動をしている障害者の支援している人からの色々な相談に応じることができた。</p> <p><b>&lt;人材育成のための研修&gt;</b> 【講習会1】「やってみよう」 ワークショップ+額装 講師：有坂隆二（美術家、元県立高校美術教諭） [概要]実際に“つくる”を体験し、創作の楽しさの原点を感じ、支援に繋げるワークショップをした。そして額装方法を学び、額装方法と額の違いによって作品の見え方の違いも体験した。 [成果]施設長に言われて参加した、美術は苦手という福祉事業所の職員が、素直に創作を楽しんでいた。また、ある施設ではこの研修をきっかけに、初めて創作活動の時間を設けたという報告を受けた。</p> <p>【講習会2】「行ってみよう」 工房集を施設見学 工房集：埼玉県川口市 [概要]宮本恵美さん(工房集管理者)の案内で、「工房集」「アトリエ輪」「川口太陽の家」の施設を見学した。その後、法人の説明を受けた。 [成果]工房集でも製品の売上げの具体的な目標を立てて創作活動をしていることを知り、それぞれの施設での問題点や活動の参考とモチベーションの向上につながった。</p> <p>【講習会3】「学ぼう①」 障害を持つ人の表現を現代美術から学ぶ 講師：小勝禮子（美術評論家、元栃木県立美術館学芸課長） [概要]障害者も出展した、小勝さんの企画の「イノセンス展」(2010年)を通して、障害を持つ人の表現を現代美術から学び、持ち寄った作品を評価してもらった。 [成果]参加者は専門家の評価を受けたことで、創作への自信が持てた。</p> <p>【講習会4】「学ぼう②」 障害のある人の人権を守ろう 講師：関哉直人（弁護士） [概要]県内では著作権等に関することに対応できる窓口はなく、この事業で今まで疑問に思っていたことや、これから活動を続けていくに当たり、押さえておきたい法律を学んだ。 [成果]死後の著作権の譲渡など講話を受けたことで解決した。その結果、改めて契約内容を考え直したりするなど、創作活動の体制をより確実に良い方向へと向けられることができた。</p> <p>【講習会5】「撮ってみよう」 作品の撮影方法を学ぶ 講師：市川信也（学芸員、元馬頭広重美術館館長） [概要]古くから創作活動を行っている福祉事業所においても作品のデータ化をしているところはなく、具体的に照明、照度計などを使っての撮影が作品データの整理に役立つことを学んだ。 [成果]作品をきちんと撮影することとデータベース化の必要性を知った。</p> <p><b>&lt;参加型展覧会タム展の開催&gt;</b> [概要]公募で作品を募集し、236点の作品が集まる。作品210点が評価委員により選ばれた。その作品を展覧会で展示するまでの一連の流れを体験した。 [成果]県内で障害者の作る芸術作品を発表する場を増やした。また、個人や福祉事業所関係者などが協力し合って1つの展覧会を作ることから、交流もでき、皆で展示方法を考えるきっかけとなった。</p> <p><b>&lt;ネットワークの構築&gt;</b> [概要]講習会やタム会議やタム展の開催のための準備などで、創作活動をしている福祉事業所の支援者や個人が交流した。 [成果]普段孤立しやすいので、1つの参加型展覧会の開催に向けて回を重ねることで、情報交換ができた。</p> <p><b>&lt;調査・発掘&gt;</b> [概要]計画より少ないが、県内で創作活動をしている福祉事業所4ヶ所に出向き、調査をした。 [成果]福祉事業所の不安や問題点がわかり、今後の活動の方向性を助言した。</p> <p><b>&lt;評価・発掘&gt;</b> [概要]栃木県内に限らず、群馬県も、公募に応募してきた、タム展に飾る作品の評価をした。 [成果]これまで把握されていなかった、若い障害者の芸術作品がまだ多数あることが判明した。</p>
---	--

## 2 事業実績 ※組織図、事業イメージ図等がある場合は添付すること

### 事業内容及び手法

※下記(1)については、支援センターを実施した団体のみ記入すること。

#### (1)支援センター(都道府県レベル)

<資料A:パンフレット>

##### ①相談窓口の体制(人数や勤務体制等)

※窓口担当が不在時の対応等についても記入すること。

※専門家アドバイザーも含め、どのような相談体制で事業を実施したのか、できるだけ具体的に記入すること。

担当者：常勤 1名(学芸員) 非常勤 1名(芸術活動支援員)  
外部専門家アドバイザー：1名(弁護士 関哉直人氏)  
対応日及び時間：火～土 10:00～17:00  
設置場所：栃木県那須郡那珂川町小口1181-2 もうひとつの美術館内  
対応方法：電話、FAX、メール、直接  
相談件数：15件

主な相談内容：

- ・作品を飾りたいと考えている。作品を提供してもらえらる福祉事業所などを知っていたら教えて欲しい。(ある公的施設からの電話)
- ・公募展に応募した作品が戻ってこない。取り戻すことはできるのか。(直接)
- ・カレンダーや本にあった写真を見て描いた作品をグッズ化し販売したい。著作権上問題はないか?(直接)
- ・作品をポストカードなどグッズにしたい。どうすればいいのか。(直接)
- ・絵本作品を販売するときの奥付きや著名の書き方を教えて欲しい。(メール)
- ・タム展のような参加型の展覧会は来年度もあるのか?(電話)

著作権や法律に関係してくる相談は一度預かり、外部アドバイザーである関哉氏に助言を求め、その後改めて相談者には回答を電話やFAX、メールで行うという形を取った。  
他の作品のグッズ化などについての質問に対しては常勤、または非常勤のうち、最初に受けた方が対応をすることとした。

##### ②人材育成のための研修実績

<資料B:人材育成講習会募集チラシ>

##### (ア)著作権等の権利保護に関する研修

※研修内容、回数、研修方法、講師等の実績についても記入すること。

##### (1) “学ぼう” 障害のある人の人権を守ろう + 個別法律相談

平成29年12月19日 11:00～16:00/とちぎボランティアNPOセンターぼ・ぼ・ら(宇都宮市)/講師：関哉直人氏(弁護士)/参加者数：12人

内容：著作権に関することを中心に関哉氏による講話。午前、午後の二部構成。[午前]講義。レジュメ、配布資料：「障害者福祉サービス事業所の造形活動における作品の著作権等の保護のための指針～著作権等保護ガイドライン～」<様式><Q & A>(平成24年3月 滋賀県作成) [午後]事前に集めていた著作権に関する質問と当日その場で出た質問に回答してもらった。(事前に集めていた質問内容が似ていた+個別でなく全体で話をしても問題ないものであったため、個別相談という形でなく、参加者全員で聴講した。)  
<資料C:質問>、<アンケート資料1>

##### (イ)障害者への芸術文化活動の支援方法に関する研修

※研修内容、回数、研修方法、講師等の実績についても記入すること。

※(ア)と(イ)を同時に行った場合などは、それぞれの欄に表記し、注をつけるなど、明確に記入すること。

##### (2) “やってみよう” ワークショップ+額装

<アンケート資料2>

平成29年11月7日13:30-16:00/もうひとつの美術館 ワークショップ室(那珂川町)/講師：有坂 隆二氏(美術家、栃木県立美術館評議員、元県立高校美術教諭)/参加者数：11人 [内容] 自ら創作を体験することで支援の前に創作の楽しさを体験するのが目的。1) 長い紙に水性絵具を使い、皆で絵を描いた。2) 絵具が乾く間に鉛筆と紙で美術館の好きな場所、物をフロッタージュ(紙を当ててこする絵画的技法)をした。3) 絵を描いたロール紙から好きな箇所切り取り、額装した。額装方法を学び、額の違いによって作品の見え方の違いも体験した。

##### (3) “行ってみよう” 工房集を施設見学

<アンケート資料3>

平成29年11月21日/工房集(埼玉県川口市)/講師：宮本 恵美氏(事業所管理者)/参加者数：12人 [内容] 先駆的な創作活動を行なっている社会福祉法人みぬま福祉会が運営する3つの施設「アトリエ輪」「川口太陽の家」「工房集(埼玉県川口市)をそれぞれの施設の担当者から説明を受けながら見学。「工房集」では事務所管理者の宮本氏からみぬま福祉会全体の取り組みについて説明を受けた。

##### (4) “学ぼう①” 障害を持つ人の表現を現代芸術から学ぶ+評価

<アンケート資料4>

平成29年11月28日/とちぎボランティアNPOセンターぼ・ぼ・ら(栃木県宇都宮市)/講師：小勝 禮子(美術評論家、元栃木県立美術館学芸課長、2010年障害者も出展した「イノセンス」展を企画)/参加者数：16人 [内容]：障害を持つ人の表現はどう捉えられているのか、講師の小勝氏が2010年に企画した「イノセンス」展を例に、現代美術の面から学んだ。講義の後、すでに創作活動を行っている事業所などから持ち寄った作品の評価を順番に小勝氏から受ける。

##### (5) “撮ってみよう” 作品の撮影方法を学ぶ

<アンケート資料5>

平成30年1月30日/とちぎボランティアNPOセンターぼ・ぼ・ら(栃木県宇都宮市)/講師：市川 信也氏(学芸員、元馬頭広重美術館館長)/参加者数：15人 [内容]：作品の写真データの撮り方を学ぶ。ライトなどの撮影機材を使用し、最低限押さえておくべきポイントやコツを聞きながら、撮影の実習を行った。

**③関係者のネットワークづくり**

※ネットワーク構築方法、ネットワークを活用した具体的な取組実績について、できる限り具体的に記入すること。

ネットワーク作りとして、facebookにて情報を共有した。また4回のTAM[タム]会議を開催した。様々な状況の中で活動している支援者たちの時間を合わせることは難しく、第1回タム会議以外は、講習会の昼休み時間に会議を開催した。会議には長年創作活動をしてきた支援者からこれから始めようかと考えている人まで、様々な立場の人たちが集まり、話し合い、活動をしている姿を見ることでお互いに刺激しあい、感化され、会議の回数を重ねるごとに、後の活動へのモチベーションが上がっていた。

**第1回タム会議** 平成29年10月31日/13:30 - 15:00/出席者4名+スタッフ2名/この日会議の為だけに集まった。[内容]開催日の告知に時間がなく、少人数であったこと、福祉事業所の方から、シフトの日程が1カ月前に決まるので、タム事業の案内はその前に欲しいとの要望が出たことから、以降の教訓とした。

**第2回タム会議** 平成29年11月28日/12:30 - 13:30/出席者16名+スタッフ2名/講習会「障害を持つ人の表現を現代芸術から学ぶ+評価」(講師:小勝禮子氏)の昼休み/[内容]自己紹介と連絡方法の考察とタム展(仮題)の開催について

**第3回タム会議** 平成29年12月19日/12:30 - 13:30/出席者13名+スタッフ3名/講習会「“学ぼう”障害のある人の人権を守ろう + 個別法律相談」(講師:関哉 直人氏)の昼休み/[内容]タム展の主催、目的、ビューイング展との違いを決めた。講習会終了後、参加者達で展覧会会場の下見を行った。

**第4回タム会議** 平成30年 1月30日/12:30 - 13:30/出席者15名+スタッフ3名/講習会「“撮ってみよう”作品の撮影方法を学ぶ」(講師:市川 信也氏)の昼休み/[内容]参加型展覧会タム展の開催に向けて準備と打合せ。レイアウト、額装などの展覧会開催のための準備の日程を決めた。

**④参加型展示会・公演等の開催**

※展示会や公演等の成果発表の企画方法や開催について、その取組実績をできる限り具体的に記入すること。

<参加型展示会>

○タイトル:「TAM | タム | 展」

○会期:平成30年2月23日~25日 (3日間)

○出展者数 (障害あり 80名 障害なし 0名) 計 80名

○来場者数 (障害あり -名 障害なし -名) 計 678名

○参加者 62名 (額装2名/レイアウト9名/額片付け4名/梱包3名/設営20名/受付24名)

○取り組みについて

- ・ 80名、210点の作品を栃木県総合文化センター第2・第3ギャラリー(宇都宮市)を使って展示。参加者が、展覧会ができるまでをその一端でも体感してもらうことを意識し、公募展という形だが、展示される作品の作者やその家族、応募した福祉事業所の職員に参加を呼びかけ、協力してもらった。
- ・ 展示作品に直接関係ある人はもちろん、古くから創作活動をしている福祉事業所、これから創作活動を始めたいと考えている福祉事業所の職員や障害者の芸術活動に興味のある一般の方、また群馬県からも創作活動をしている障害者の親達のグループも参加し、交流をしながら行った。展覧会の設営、撤収、会期中の受付だけでなく、額装や展示レイアウトの検討なども参加者ともに行った。
- ・ 栃木県の障害者の芸術作品の質は決して低くない。それを色んな人に見せよう意識し、企画した。そして宇都宮の中心部で行ったことで、これまで障害者の芸術作品を見たことのない今回初めて観た人にも作品の魅力を発信できた。
- ・ タム展の準備や出展作家の1人の創作活動をNHK宇都宮放送局が取材・撮影し、その様子はNHK総合テレビジョンで3月7日には番組「とちぎ640」で栃木県内放送され、4月10日には番組「おはよう日本」で全国に向けて再放送された。
- ・ 来場者の反応や感想 (参加者アンケートより)

多くの人に見て知ってもらえ有意義だった/情報の共有やつながりができ今後に活かせるようになった/絵に対する考えが変わった/今後の活動のイメージが広がった/作家自ら展示し、自分の作品や他の作品を目にし、創作意欲の向上に繋がった。

(来場者アンケートより)

すごくパワーを感じられた。/大変感銘した。色使いや細密な作品に驚いた。/ひとりひとりの紹介を読みながら絵をみていると絵に織物に作品に喜々として向かわれている姿が目につきます。/素晴らしかった。県内各地で開催してください。

<資料D:タム展 募集要項>、<資料E:タム展 チラシ>、<資料F:タム展 出展リスト>  
<アンケート資料6>、<資料G:掲載新聞記事>、<資料H: NHK宇都宮放送局 DVD>

**⑤協力委員会の設置**

※別添「協力委員名簿」を作成するとともに、協力委員会の実施内容や実施回数等について具体的に記入すること。

○第1回 平成29年8月23日/栃木県庁会議室 内容:事業計画の説明  
<資料 I:協力委員名簿>

○第2回 平成30年3月27日/栃木県庁会議室 内容:事業実施報告

<p><b>⑥調査・発掘</b></p> <p>※調査方法、調査に伴う専門的人材についても記入すること。</p>	<p>&lt;アンケート調査&gt; <span style="float:right">&lt;資料 J: アンケート集計&gt;</span></p> <p>・福祉事業所、学校、病院など677カ所に書面にてアンケートを送付し、122カ所(施設110、個人12)より回答を得た。回答率18% (送付総数677通)</p> <p>&lt;福祉作業所調査研究&gt;</p> <p>(施設の選考) アンケートやTAM会議等で話をし、すでに創作活動をしているけどマンネリ傾向にあるところ、これから本格的に創作活動を始めようとしているところ、表現をする人の対応に悩んでいるところを訪問し、現状を把握し、助言することでいい方向に向かうと判断した。</p> <p>(訪問先4ヶ所)</p> <p>1. 平成29年10月23日(月) 10時30分～11時30分/場所:(社福)那須烏山市社会福祉協議会 就労継続支援B型事業所 あすなろ(那須烏山市)/調査員:有坂隆二(美術家、栃木県立美術館評議員、元県立高校美術教諭)、梶原紀子(当館代表理事 兼 館長)、葛西絢子(当館芸術活動支援員)/実施内容:聞き取り調査、創作活動:織・絵画、数年前に県内唯一のギャラリーを併設した建物を新築。2日/週の創作活動だったが、支援者の人材確保が難しく、1日/週になった。</p> <p>2. 平成30年1月29日(月) 13時～14時30分/場所:(社福)晃丘会 障害者福祉事業 ひばり(宇都宮市)/調査員:有坂隆二、梶原 紀子、五味渕 仁美(当館学芸員)/実施内容:聞き取り調査、創作活動:絵画、今秋にギャラリーを持ったアトリエを作り、本格的に活動とポスター販売を始める予定。</p> <p>3. 平成30年2月2日(金) 13時30分～15時/場所:(有)福祉ネット やわらぎ(那須町)/調査員:有坂隆二、梶原 紀子、五味渕 仁美/実施内容:聞き取り調査、絵画の他に、繰り返し“編む”行為をする利用者を見学した。</p> <p>4. 平成30年3月28日(水) 14時～15時30分/場所:(社福)すぎの芽会 すぎの芽学園(宇都宮市)/調査員:有坂隆二、梶原 紀子、五味渕 仁美/実施内容:聞き取り調査、創作(絵画)の現場を見学。宮坂健氏(美術家)が1回/2ヶ月、27年前よりボランティアで創作活動の指導に来ている。デイセンターすぎの芽と同日の前半後半にすれば、1回/月となり、利用者も増え、活性化すると助言した。</p>
<p><b>⑦評価・発信</b></p> <p>※評価方法、発信方法、評価委員会の委員選考方法についても記入すること。</p>	<p>(評価委員会の開催)</p> <p>平成29年1月21日(日) 10時～15時/場所:もうひとつの美術館 展示棟</p> <p>参加型展覧会タム展は公募とし、3名の評価委員による、以下の評価基準とした。</p> <p>○評価委員及び評価委員の選考方法:</p> <p>有坂隆二:美術家、栃木県立美術館評議員、元県立高校美術教諭、東京藝術大学美術学部卒、那須烏山市在住。20年ほど前から幼児小学生などへの造形教育に、また、県立高校美術教諭を定年退職後の6年前頃から、障害者の創作活動にも積極的に関わっている。</p> <p>梶原良成:宇都宮大学教育学部教授、建築家、当館理事、東京藝術大学美術学部卒、那珂川町在住。2001年の設立当初からの会員であり、当館のアートディレクターを務める。また、平成29年度宇都宮大学「地域連携・支援事業」では、特別支援学校や当館でのワークショップの開催を当館と協働企画し、障害の有無にかかわらず表現活動の普及に尽力した。</p> <p>梶原紀子:当館代表理事 兼 館長、建築家、栃木県立美術館評議員、京都市芸繊維大学工芸学部、武蔵野美術大学造形学部卒、那珂川町在住。</p> <p>○評価基準:</p> <p>1、「上手」「下手」ではなく、作り手の思いが強く表現されているか。</p> <p>2、自発的で自分の表現になっているか。</p> <p>3、作品全体の完成度が高いか。</p> <p>○評価方法:</p> <p>評価委員一人ずつ付箋を持ち、上の評価基準に照らし合わせ、応募作品総数263点から1枚も付箋のない作品を落選として、入選作品210点を選んだ。</p> <p>○発信方法:</p> <p>開設したアートサポートセンター『TAM』のウェブサイト及びFacebookを活用して平成29年1月25日(木)に入選作品を発信した。</p> <p>(評価・発信の成果)</p> <p>会場である栃木県総合文化センター第2、3ギャラリーは展示面積が大きいので、タム展への応募作品点数を10点/人とした。その結果、作家の持つ表現の世界がよく伝わる作品を評価し、展示という形で発信することができた。</p> <p>(評価・発信の課題)</p> <p>ウェブサイトやFacebookの更新頻度とアクセス数をどう増やしていくかが課題。</p>
<p><b>⑧都道府県との連携</b></p> <p>※都道府県との連絡体制や都道府県と協力して実施した事業の内容について記入すること。</p>	<p>(1)栃木県障害者芸術展「Viewingビューイング2018」を栃木県からの委託事業として開催した。栃木県内にて公募し、入選した作品70点を県庁15階にて展示した。(期間:平成30年1月9日～12日)</p> <p>&lt;資料 K: Viewing展募集要項&gt;、&lt;資料L: Viewing展展覧会チラシ&gt;</p> <p>(2)平成29年度栃木県障害者芸術支援員養成研修にて、当館館長 梶原紀子が講話した。</p> <p>(3)当館館長 梶原紀子は、県立美術館の評議員であり、また、障害者週間のポスターの審査委員や文化振興審議会委員も務めており、県障害福祉担当課・文化芸術担当課とも連携して事業を実施することができ、タム展開催中には、何人もの県担当課の職員が展覧会の会場に会場に来ていた。</p> <p>(4)県障害福祉担当者は、福祉事業所へアンケート送付先の伝達、広報、タム展参加者の駐車場の手配、設営や撤収と連携した。</p>

<p><b>⑨障害者芸術・文化祭との連携</b></p> <p>※全国障害者芸術・文化祭やサテライト開催と連携した実績について、具体的に記入すること。</p>	<p>(1)なら大会のチラシなどの広報連携をした。</p>
<p><b>⑩文化プログラム等について</b></p> <p>※東京2020参画プログラム、beyond2020への申請内容、取組実績などについて記入すること。</p>	<p>参加型展覧会タム展では、beyond2020プログラムへ申請し、チラシに明記した。(資料Eを参照)</p>
<p><b>⑪その他</b></p>	

※下記(2)については、広域センターを実施した団体のみ記入すること

<b>(2) 広域センター(ブロックレベル)</b>	
<p><b>①相談窓口の体制(人数や勤務体制等)</b></p> <p>※支援センターに対する相談体制、未実施都道府県に対する支援体制を記入すること。</p> <p>※窓口担当が不在時の対応等についても記入すること。</p> <p>※専門家アドバイザーも含め、どのような相談体制で事業を実施したのか、できるだけ具体的に記入すること。</p>	
<p><b>②人材育成のための研修計画</b></p>	
<p><b>(ア)支援センターに対する研修</b></p> <p>※研修内容、回数、研修方法、講師等の実績についても記入すること。</p>	
<p><b>(イ)未実施都道府県に対する研修</b></p> <p>※研修内容、回数、研修方法、講師等の実績についても記入すること。</p> <p>※(ア)と(イ)を同時に行った場合などは、それぞれの欄に標記し、注をつけるなど、明確に記入すること。</p>	
<p><b>③関係者のネットワークづくり</b></p> <p>※ネットワーク構築方法、ネットワークを活用した具体的な取組実績について、できる限り具体的に記入すること。</p>	

**④ブロック連絡会議の開催**

※実施団体向けの勉強会や外部への報告会の内容、開催時期等について、実施した内容を具体的に記入すること。

**⑤障害者芸術・文化祭との連携**

※全国障害者芸術・文化祭やサテライト開催と連携した実績について、具体的に記入すること。

⑥文化プログラム等について

※東京2020参画プログラム、beyond2020への申請内容、取組実績などについて記入すること。

⑦その他



※下記(3)については、連携事務局を実施した団体のみ記入すること。

<b>(3) 連携事務局</b>	
<b>① 事務局の体制</b> ※組織図等があれば添付すること。	
<b>② 事務局の行った業務</b> ※広域センターのとりまとめ役として実施した業務について、具体的に記入すること。	
<b>③ 全国連絡会議の開催</b> ※広域センター等向けの勉強会や外部への報告会の内容、開催時期について、実施した内容を具体的に記入すること。	

**④障害者芸術・文化祭との連携**

※全国障害者芸術・文化祭やサテライト開催と連携した実績について、具体的に記入すること。

**⑤文化プログラム等について**

※東京2020参画プログラム、beyond2020への申請内容、取組実績などについて記入すること。

**⑥その他**

※下記については、全実施団体が記入すること。

### 事業の実施により得られた成果の今後の活用について

※事業の実施により得られた成果の今後の活用方法について具体的に記入すること。

#### 【相談支援機能を持った拠点の設置】

とちぎアートサポートセンターTAMタムに相談窓口を設置したが、電話相談の数はまだまだ少ないものの、疑問や不安など悶々と抱え込んでいる方はいると考えられる。今後も続けていきたい。

#### 【参加型展覧会の開催】

1. 発表の場が少ないことを問題に挙げる声が多く、今回のような参加型展覧会が続くことを期待する声が多かった。今後も障害者の創作活動に関わる人たちや興味のある人たちを巻き込みながら展覧会を開催していきたい。

2. 参加型展覧会タム展を公募で開催したことで、これまで知らなかった、特別支援学校中等部または高等部に通う、障害を持つ若者の個性的な作品が集まってきた。特に群馬県から参加した、創作活動をしている障害者の親達のグループの活動を知ることができた。同様に当館が知らないだけで、他にも創作活動をしている障害児者はまだいると思われる。

3. 障害者の創作活動を支援する人、特に、障害者の家族は、孤立しがちであり、参加型展覧会の開催と開催のための講習会は支援者の意識を変え、支援者間の交流、経験豊富な支援者から新人へと世代交代を促進し、結束力を高めた。今後も参加型展覧会の開催を続けていくことで、新たな支援者の育成と、創作活動をすすめる障害者の発掘に努めたい。

#### 【アンケート調査】【調査】

1. 返送された63%の施設において、美術、音楽などの何らかの表現活動を行っていることがわかった。福祉事業所での障害者の芸術文化活動の支援者を支援することは、今後の日本の障害者の芸術文化の更なる普及に重要であると思われる。そのためには、アンケートを鵜呑みすること無く、アンケートを基に福祉事業所に出向き、障害者の芸術文化活動の実態を調査することで把握したい。

2. また、アンケートを送った県内16校の特別支援学校のうち、記入返送された5校では、どのような状況で行われているのか詳細はわからないが、皆、芸術活動が行なわれているという結果が出た。

障害者の多くが通う、特別支援学校において、障害児童・生徒一人一人の個性にあった、作業とは異なる芸術文化活動ができる環境というものを整える必要性があるのではないかと。そのためにも、特別支援学校での美術教育、クラブ活動にも調査をしていきたい。

3. 今年度の調査は、県内では古くから芸術文化活動をしている福祉事業所を2ヶ所、比較的新しく創作活動を始めていて、これから本格的に進めていこうとしている福祉事業所を2ヶ所それぞれ訪問した。回数こそ少なかったものの、栃木県の障害者の芸術文化活動の支援を多少なりともできた。